

自動化と生産工程の見直しで 複雑化する顧客のニーズに対応

課題

専門に特化した高い技術力を 強化する生産工程の革新計画

創業以来、紳士・婦人スラックスの製造一筋に事業を展開してきた岩手アパレル株式会社の強みは、きわめて専門性の高い技術力だ。原材料の仕入れから裁断、縫製、仕上げ、検査、出荷に至るまで、完全分業型の製造ラインを構築。少量から大量生産まで顧客のニーズに応じた生産が可能で、スラックス1本当たり最短1分33秒で生産が可能というスピード感も、移り変わりの早いアパレル業界のニーズに即応するものとして、高い競争力を誇る。

さらに、顧客が求める付加価値の高い複雑な仕様に対応し、デザインを具現化する製造手法を提案するなど、他社にはない強みが提案型企業として高い評価を受け、国内外の有名アパレルブランド、商社、学生服メーカーを顧客にもつ。

しかし、顧客のニーズはますます複雑化・多様化の一途をたどっており、その対応が急務の課題となっていた。小ロット・短サイクルで、複雑なデザイン・仕様に、高品質、短い納期、低価格で対応しなくてはならない。作業工程の入口では、ひとつのデザインごとに型を起こし、使用設備や加工経路などの工程を組み立てる必要があるが、熟練の職人の技術頼みのやり方では限界があると感じていた。

また、同社では慢性的な人手不足が続いており、生産性の低下を引き起こすことへの懸念もあった。そこで平成26年3月、諸問題の打開のために新たな設備の導入が必要となったことから、資金調達について遠野商工会に相談した。

支援

設備投資で作業効率は1.3倍 生産数30%増を実現

商工会がヒアリングを行い、課題の見える化を行った結果、作業工程の入口である裁断部門と縫製部門の効率化が真っ先にクリアすべき課題であるという結論に至った。そこで、ものづくり補助金の申請を支援し、裁断部門にCADデータを活用して生地を指定した長さにカットする自動延反機を導入し、効率化を図るとともに原材料のロスを削減。縫製部門には後ポケット向布付け自動機と、タックおよびダーツ縫い機を導入して、工程のスムーズな流れを構築した。

引き続き平成27年には、経営力向上計画を策定。翌年にはものづくり補助金でボトルネックとなっていたスボンプレ



メーカーと共同開発して導入したプレス機

ス工程と、ベルトループ付け工程の効率化に着手した。既存の両足プレス機では使い勝手に問題があったため、独自の改良を加えたオリジナルプレス機をメーカーと共同開発して2台導入。ベルトループ付けミシンは3台導入し、ウエスト周りの加工工程を一人の熟練技術者に集約する「多台持ち」方式に切り替えることにした。一人が1工程だけ担当する場合に比べて品質のばらつきが減る。これらの効率化で作業効率は1.3倍にアップし、生産数の30%増を実現した。

商工会では、今後も作業工程の改善と自動設備の導入を継続的に行い、成長し続ける企業となるようサポートしていく。

支援の経過

期間	支援内容
H26年3月	ヒアリング・ものづくり補助金の申請支援
8月	ものづくり補助金採択、新設備導入
H27年11月	新たな課題解決に向けたヒアリング・経営革新
H28年1月～2月	経営力向上計画承認・経営革新計画承認
4月	ものづくり助成金採択・設備導入

会社概要

会社名：岩手アパレル株式会社
 住所：岩手県遠野市土淵町土淵22-27-15
 電話番号：0198-62-4551
 URL：<https://www.ginga.or.jp/agreement/list/06iwateapparel.html>
 代表者名：代表取締役 萩野幸弘
 創業年：昭和51年
 年間売上高：6億3290万円（平成28年）
 従業員数：121名
 商工会名・担当者名：遠野商工会・河内夕希枝